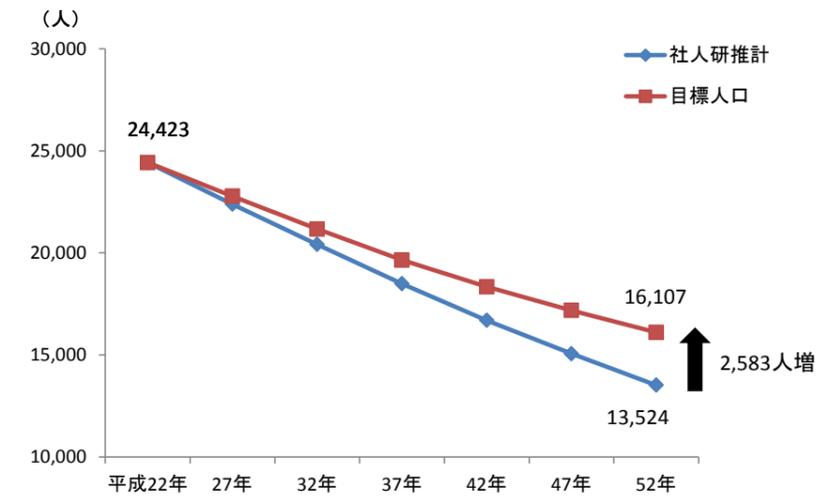


4. 竹田市人口ビジョン

【人口目標】



- 竹田市の人口は出生数の減少と高齢者数の増加により自然減となっていますが、農村回帰推進事業等により転入者は増加傾向にあります。
- 本市では今後、子育て・教育等の良好な環境づくり、多様な就労形態の実現、雇用の創出を図り、合計特殊出生率を平成27年から平成32年までは1.67、平成37年までに1.80、それ以降は2.10と設定します。
- 社会増減については、地域の強みを活かした産業振興や企業拠点の誘致による地域雇用の拡大を図り、転出者の抑制と転入者の増加を目指し、転入超過人数を年間20~40人と設定します。
- 「竹田市人口ビジョン」では、平成52年の総人口目標を16,100人と設定します。

具体的に総合戦略では！？ 【健康寿命編】

平均寿命は平均寿命は0歳の子どもが何年生きられるかという期待値を表したもので、健康寿命はあと何年自立して健康に生きられるかを測る指標です。

本市の平成23年の平均寿命は、男性が80.54歳、女性が85.89歳。同年の健康寿命は男性が79.03歳、女性が83.04歳となっています。

平均寿命と健康寿命の差は、健康上の問題で日常生活動作に制限がある期間を意味しており、男性は1.51年、女性は2.85年。



総合戦略では、市民総参加で健康寿命を延ばすまちづくりを推進し、疾病予防、介護予防に取り組み、多世代を通じて健康づくり、スポーツ・レクリエーション活動の充実を図ります。

また、65歳以上の高齢者にも現役で地域活動を維持する役割を担い、その知識や技能を活かすことが求められています。健康で安心な充実したシニアライフが送れる地域社会を目指します。

■KPI：健康寿命の延伸
平成31年度：男性80.15歳・女性84.07歳

1. 「竹田市地方創生 TOP 総合戦略」とは

竹田市は少子高齢化や人口減少という問題に対して、将来の発展に強い危機意識を持ち、以前から過疎対策や積極的な若者の定住促進、新規就農者支援などに継続的に取り組んできました。また、国の地方創生の流れに先行し、平成25年度から人口減少による地域社会の将来リスクの検討を始め、平成27年3月に定住・移住促進策や自治体のブランド力を高める施策展開を提案する「竹田市定住促進ビジョン」を策定したところです。

「竹田市地方創生 TOP 総合戦略」は、「竹田市定住促進ビジョン」を基に「竹田市人口ビジョン」と国や大分県の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を勘案した上で、平成27年度から平成31年度までの5年間を対象期間とした、特に先行して実施すべき実効性のある戦略を集約しています。



2. 竹田市における地方創生に向けた基本的な視点

【視点1】“農村回帰宣言市”として、U・I・Jターンの環境整備による生産年齢人口拡大の実現

本市では、少子高齢化・過疎化の克服、コミュニティの再生につながる政策として、全国に先駆け平成21年6月に「農村回帰宣言」を行っています。移住の希望者に対するサポート体制や支援制度の確立、市独自の住宅整備による移住・定住の促進を目指してきました。今後も、本市に「住みたい」「住み続けたい」という希望をかなえられる環境を整備していきます。

【視点2】若い世代の多様な就労、結婚、妊娠・出産、子育ての環境を整備し、地域ニーズに応える

将来的に人口の縮小に歯止めをかけ、人口構造のバランスを適正化していくには、若い世代の定住、転入の拡大を図り、結婚、妊娠・出産、子育てを地域全体で支援していくことが重要です。そのために、地域での多様な就労、雇用創出、子育て、教育等の良好な環境づくりを図ります。

【視点3】市民の健康寿命を延ばし、心豊かな暮らしを支える

既に高齢化率が4割を超えている本市では、65歳以上の高齢者でも現役で地域活動を維持する役割を担い、その知識や技能を活かすことが求められています。健康で安心な充実したシニアライフを送ることができる地域社会を目指します。

【視点4】地域資源・地域産業を活用し、域内経済の好循環を促す

定住促進のためには、経済基盤を確立し、市民生活の維持・向上を図ることが重要です。本市の地域特性に合った産業の育成、付加価値の高い産業の創出を図り、広域的な流通、販売力の強化、域内での消費拡大といった経済面の好循環を促していきます。

3. 竹田市地方創生 TOP 総合戦略【全体像】

【基本目標Ⅰ】 ひとを大事にし、郷に生きる人間力を育む

数値目標	基本的方針・具体的施策	重要業績評価指標(KPI)
■若い世代の結婚・子育ての希望の実現 合計特殊出生率 平成37年:1.80 ■健康寿命 平成36年度:大分県一	(1)結婚から子育てまで切れ目のないきめ細かい支援 ①結婚活動の支援 ②保育サービスの充実 ③地域ぐるみで子育て一番宣言 ④子育てと仕事の両立支援	■男性未婚率(24~49歳) 平成32年度目標:県平均と同水準へ ■病児保育施設利用者数 平成31年度目標:1,061人 ■子育てが地域の人に支えられていると感じる人の割合 平成31年度目標:75.0% ■父親と母親の子育てに関する役割分担は同等と感じる人の割合 平成31年度目標:60.0%
	(2)夢に向かって挑戦する子どもの育成 ①竹田郷土学の紐とき事業 ②竹田市教育のまちTOP<SUN3>運動の推進と実践 ③地域とともにある学校づくり	■児童生徒の学力(全国学力学習状況調査、国・算・数のA知識・B活用の正答率合計:全国比) 平成31年度目標:小学校 +16.7ポイント、中学校 +17.4ポイント
	(3)誰もが安心して暮らせる地域医療体制の確立 ①安心して子育て(妊娠・出産)できる環境づくり ②地域医療体制の整備・充実	■居住地域における子育て環境や支援に対し満足している人の割合 平成31年度目標:50% ■地域医療体制の整備・充実(地域医療を担う新たな医師の確保) 平成31年度目標:1人
	(4)健康一直線~市民総参加で健康寿命を延ばすまちづくり ①健康づくり組織の育成と支援 ②健康増進と予防活動の充実 ③スポーツ・レクリエーション活動の充実	■特定健診受診率(国保) 平成31年度目標:60% ■健康寿命の延伸 平成31年度目標: 男性80.15歳女性84.07歳
	(5)安心と充実のシニアライフの支援 ①元気な高齢者の活躍の場づくり ②高齢者が自立した生活を継続できる地域づくり	■介護認定を受けていない高齢者割合 平成31年度目標:80% ■サロン(おしゃべり・生きがい系)の数 平成31年度目標:170か所 ■高齢者安心ネットワークの登録者数 平成31年度までの5年間:300人

【基本目標Ⅱ】 技の集積と地域経営力を高め、しごとを創出する

数値目標	基本的方針・具体的施策	重要業績評価指標(KPI)
■就業人口の確保 平成32年:9,000人の就業確保	(1)竹田クリエイティブ・シティ構想の実践(新産業創出) ①「創造的人材」の集積・拠点整備 ②TSG「竹田総合学院」構想の実践 ③民間や大学との連携による起業・創業の推進	■起業・創業人数 平成31年度までの5年間:計55人
	(2)地域特性にあった企業の育成・集積 ①ヘルスケア産業の創出と振興 ②地域資源を活かした産業振興 ③商工業の活性化	■誘致企業数 平成31年度までの5年間:計10社 ■空き店舗の利活用 平成31年度までの5年間:計10件
	(3)農林畜産業の振興による竹田ブランドの確立 ①新規就農者の育成支援 ②企業との連携 ③農商工連携によるブランド化の推進	■農業の付加価値額全国順位 平成31年度目標:全国市町村上位35位以内 ■新規・親元就農者 平成31年度までの5年間:100人
	(4)若者や女性、高齢者の雇用機会の創出 ①若者の就労支援 ②ライフスタイルに柔軟に対応した労働環境の整備	■この戦略で高性能機械を導入した支援企業の売上伸び率 平成31年度:5%増を維持

竹田市人口ビジョン：平成52（2040）年人口 16,100人

【基本目標Ⅲ】 地域力を輝かせて農村回帰の流れを加速させる

数値目標	基本的方針・具体的施策	重要業績評価指標(KPI)
■移住施策を活用した移住者数 平成31年までの5年間:計100世帯	(1)若い世代(子育て世代)の定住促進 ①子育てしやすい住環境の整備 ②竹田の良さを活かした魅力的な宅地分譲の促進	■定住に繋がる住宅分譲地の整備・販売による定住人口の確保 平成31年度までの5年間:45区画整備 既住・移住世帯20世帯 ■空き家バンクへの登録者数 平成31年度までの5年間:計650人 ■空き家バンクへの登録件数 平成31年度までの5年間:計100件
	(2)農村回帰の推進 ①農村回帰支援体制の充実 ②既存ストック(空き家等)の有効活用 ③移住定住を促進させる情報発信の強化	■観光客数 平成31年度目標:350万人 ■観光客数のうち宿泊客の占める割合 平成31年度目標:2ポイントアップ
	(3)温泉資源活用による新たな観光戦略と滞在型観光交流の促進 ①湯治文化を活かした保養温泉地づくり ②地域ごとのニーズを捉えた多様なツーリズムによる交流機会の創出 ③インバウンド(海外誘客)への対応	■ふるさと納税件数 平成31年度目標:1,000件 ■竹田に興味を持った人の数(市HPアクセス回数) 平成31年度目標:550,000件
	(4)竹田ブランドを高める情報戦略 ①魅力的な情報コンテンツづくり	

【基本目標Ⅳ】 コンパクトシティを構築し、集落機能(暮らし力)を高める

数値目標	基本的方針・具体的施策	重要業績評価指標(KPI)
■政策による住宅確保 平成36年度:30戸 ■小さな拠点(くらサポ・寄合場等)設置 平成36年度:全ての校区(19)に設置	(1)竹田市版コンパクトシティの推進 ①各地域ならではのコンパクトシティの構築 ②城下町再生プロジェクトの推進 ③中心市街地の活性化	■中心市街地内観光客数(6観光施設) 平成31年度目標:21万人 ■中心市街地内居住人口(20自治会) 平成31年度目標:1,274人
	(2)「小さな拠点」の形成 ①暮らしのサポートセンター事業の推進 ②道の駅機能拠点強化事業の推進	■小さな拠点の設置 平成31年度までの5年間:10か所新たに設置 ■サポーターの養成 平成31年度までの5年間:計300人 ■道の駅直売所利用者数 平成31年度目標:416,000人
	(3)連携中枢都市圏による広域連携と中心部・周辺部のネットワーク化の推進 ①大分都市広域圏・連携中枢都市圏による経済・生活圏の向上 ②広域交通ネットワークの推進 ③地域公共交通の利用促進 ④ネットワークコミュニティの推進 (4)地域コミュニティの再構築 ①集落機能維持の仕組みの再構築 ②地域防災機能の強化	■コミュニティバス・寄合タクシーの利用者 平成31年度目標:25,000人 ■市ケーブルネットワークへの加入率 平成31年度目標:80% ■救命講習受講者数 平成31年度までの5年間:10,000人

